この部屋は、伊達藩の藩主専用の部屋であり、床にその地位が反映されていた。

京都の職人によって作られた金具には複雑な花模様が彫られ、この部屋が重要であったことが強調されている。鍵穴に似せた框の出入口の形は、屋外の窓によく使われるデザインである。

長谷川等伯（生没不明）による壁画は、君主の理想的な性質を描いている：梅は高潔を、竹は清操を、また牡丹は富貴を表している。花木は四季を描いている。